

医学生の皆さんへ

初期研修プログラム内での呼吸器内科研修について

日本赤十字社医療センター呼吸器内科スタッフ

出雲雄大（部長）、猪俣稔（副部長）、久世眞之、栗野暢康、守屋敦子、刀祢麻里、徐立恒、吉村華子

日本赤十字社医療センター初期研修プログラムでの呼吸器内科ローテーション研修の特徴

- ・ 内科の中でも特に重要といえる呼吸管理が学べます。
- ・ 病棟は若手中心でコミュニケーションが取りやすい環境です。
- ・ ジュニアレジデント（初期研修医）の担当患者数は 10 人程です。
- ・ 肺癌、アレルギー、感染症など多彩な疾患が経験できます。

都心の基幹総合病院でバランスの良い臨床経験が可能

・ 大学病院や National center などの呼吸器内科では入院患者さんの多く（80%以上）が悪性腫瘍ということがありますが、当科は悪性腫瘍と非悪性腫瘍の割合が約 50%であり、また救急からの入院も多く、初期研修ローテーションでバランスよく経験ができます。

経験できる疾患

- ・ 感染症

市中肺炎、院内肺炎、結核、非定型抗酸菌症、真菌症（アスペルギルス、クリプトコッカス等）、放線菌症、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス肺炎など

- ・ 慢性気道疾患・アレルギー疾患

気管支喘息、COPD、気胸、リンパ脈管筋腫症、びまん性細気管支炎、ANCA 関連血管炎、膠原病関連肺疾患、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症など

・びまん性肺疾患

特発性間質性肺炎、薬剤性肺障害、過敏性肺炎、サルコイドーシスなど

・腫瘍性疾患

原発性肺癌、転移性肺癌、悪性胸膜中皮腫、胸腺腫、胸部のリンパ腫など

学術活動の推進

初期研修医のドクターにも積極的に学会発表を行っていただいています（強制ではありませんが、一緒に受け持ちをした指導医が指導し、できる限り学会発表することを勧めています）。呼吸器学会関東地方会を中心に発表（受け持ち症例）を行っています。ホームページに掲載があるようにこれまで優秀賞や奨励賞などを多数受賞しています。



医学生の皆さんへ

最後に当科のアピールポイントを以下にまとめます。

・カンファでの教育的な雰囲気。人工呼吸器、非侵襲的陽圧換気の症例を経験できるチャンスが多い。症例は多彩で Common disease から専門的な病気まで経験可能。手技の機会が多い（胸腔ドレーン挿入、中心静脈カテーテル挿入、胸腔穿刺、気管支鏡の観察など）。胸部 X 線、CT の読み方が学べる。みんなで日常臨床だけではなく、研究や発表も頑張ろうという雰囲気、などです。ぜひ一度見学にいらしてください。

見学に関する問い合わせ先

日本赤十字社医療センター教育研修推進室 rinsyokensyu@med.jrc.or.jp または、
日本赤十字社医療センター呼吸器内科教育担当（部長）出雲 雄大 izumo_takehiro@med.jrc.or.jp